

研究だより



香川大学教育学部 附属坂出小学校

ごあいさつ

校長 まつむら 松村 まさふみ 雅文
副校長 たると 樽本 みちかず 導和

陽春の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、本校では平成27年1月25日(日)、31日(土)、2月1日(日)の3日間にわたり、教科別授業研究会を開催いたしました。休日にもかかわらず、県内外から延べ約750名の参会者をお迎えし、盛会裏に終了することができました。

参会者からは「土日開催ということたくさんの授業を参観できてよかった」「育てるカウンセリングについて学びたい」「声かけ等の雰囲気づくりを大切にしたい」等の感想をいただきました。参会の先生方の熱心な思いを感じるとともに、世代交代が進む中、若年の先生方を中心に授業力向上のお役に立てる実践研究を進めていこうと決意を新たにしております。また、ご指摘いただいた課題を大切に、次年度には同じテーマで深化した実践を発信できればと考えております。

懇切なるご指導ご助言をいただきました、香川県教育委員会、各市町教育委員会、坂出綾歌校長会、香川大学教育学部の先生方、また、運営にご協力くださいました方々に対して、心より御礼申し上げます。



対話を通した「思考力」の育成

- 「育てるカウンセリング」を生かして、個々の考えを広げ深める授業づくり -

2020年度より、大学入試が大きく変わることが発表されました。「覚える」から「考える」への転換です。そこで求められている力は、大学進学のかんにかかわらず、変化の激しい時代を生きる、現在の子どもたち一人一人に育成されるべき力です。

本校では、これまで、新たな問題を解決するために必要な「思考力」の育成をテーマに、研究してまいりました。本年度は、とりわけ思考に対する対話の働きに着目して授業づくりに取り組みました。「私は、こう考える。」「僕は、こう考えたよ。」と、自分なりの考えをもった子どもたちが対話することで、さらにその考えを広げたり、深めたりしていくことができると考えます。

本年度の授業研究会では、17の提案授業を公開いたしました。各授業では、集団の関わりを深める「育てるカウンセリング」を生かした働きかけにより、子どもたちの対話を促進しようと試みしました。次頁からは、その様子を掲載しています。授業や討議を通して明らかになった成果と課題を、次年度の研究に生かしていきたいと考えています。引き続き、ご指導ご助言を、よろしく願いいたします。

新1年生に小学校の楽しさを教えてあげようと、入学してからの出来事やその様子について、さまざまに思い出してきた子どもたち。本時は、自分が教えてあげたい出来事を文章にまとめていきました。



まず、自分たちにとっては未経験の、3年生での学習の様子について書かれている二つの文章を読みました。そして、そこから楽しさが伝わってこない理由を全体で話し合い、その出来事を経験していない相手に楽しさを伝えるには、様子を詳しくしたり、それを読んだ相手がやってみたい気

【書いた内容についてペア対話】

持ちになりそうな事柄を選んで書いたりするとよいことに気付いていきました。この気付きを生かして自分が選んだ出来事の楽しさを伝える文章を書いた後、ペアでお互いの文章を読み合いました。その際、「私の文章の、どこから楽しさが伝わってくるかな。」「どんなふうに直すといいかな。」等と質問し合



【事柄を選んで書く】

うことで、自分の文章のよいところや修正点を確認していきました。子どもたちは、朝の活動等で取り組んだ「遊びや活動に友達を誘おう」を生かし、「一緒にやろう。」と自分から声をかけ、たくさんの友達と対話を行っていきました。そして、ペア対話での友達の意見を基に、自分の文章を修正したり加筆したりしていきました。

授業討議では

「目的意識、相手意識を明確にもちながら、書くことや対話に向かうことができている」「自分から声をかけて、積極的に友達と関わろうとする雰囲気が見られた」というご意見をいただきました。一方、「書く時間を十分に確保したい」「ペア対話の中での子どもの気付きを、全体に広げる場面がもっとあるとよかった」等のご意見もいただきました。

子どもたちは韓国の国際交流員の方に向け、紙芝居づくりに取り組んでいます。その際、教科書教材『木かげにごろり』と自分が選んだ民話を、並行しながら学習してきました。前時には、自分の民話の会話文について、人物の気持ちになって「明るい声」や「暗い声」で読めるよう、読み方を工夫しました。



続く本時では、『木かげにごろり』の地の文について考えていきました。すると、同じ文に対する紙芝居の読み方が、クラスの中で「明」と「暗」に分かれることになりました。「悪い地主が懲らしめられて、私は、嬉しく感じたから、明るい声で読みたいよ。」「地主は、ご先祖様へのお供えまで食べられてかわいそう

【読み方が分かれる】

だから暗い声で読みたいよ。」等、叙述を振り返りながら、考えが異なる理由を述べ合いました。その際、育てるカウンセリングに基づいた朝の活動「うれしい話の聞き方」を振り返らせ、反対の意見も、受容的に聴けるようにしていきました。



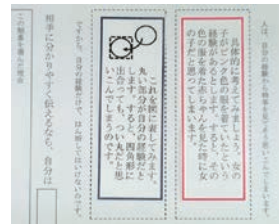
【違う読み方を伝え合う】

このような対話や、試しの音読を通して、子どもたちは、「ここは、暗い声で読みたいと考えが変わりました。」「やっぱり初めの考えのままで読もうと思います。」と、自分なりの読み方を見いだしていきました。その後、次時では自分の民話の地の文について考えていくという見通しを立てました。

授業討議では

「本時の子どもたちの姿から、紙芝居にして伝えるという意識が、しっかりと浸透していることがうかがえた」「自分の考えをきちんともち、異なる考えを受け入れる姿勢が、対話を自然と生むことにつながっていた」等のご意見をいただきました。一方で、「一斉による音読ばかりでなく、個々に音読させる時間を設けることも必要だった」等のご意見もいただきました。

新聞やインターネット等、メディアとの付き合い方について、家族に伝える文を書いている子どもたち。教科書の文章を参考に、自分の文章の構成について考えていました。本時では、本論の構成について「図から具体例」「具体例から図」のどちらの構成が相手に伝わりやすいか考えていきました。そこで、教師が提示した教材文の、図の段落と、具体例の段落を入れ替えながら読み、伝えたいことが相手に伝わりやすいと思った構成とその理由を述べ



【構成を入れ替えることができる教材】

合っていました。その際には、スムーズに対話ができるように、対話の手順をカードで示したり、演示したりしました。また、朝の活動で行ってきた、自信をもって自分の意見を言ったり、相手の意見を受け止めて聴いたりする話し合い活動を想起させ、対話しやすい雰囲気を高めていきました。その中で「僕は図、具体例の順番の方が伝わりやすいと思います。だんだん分かりやすくした方が、伝



【違う意見の相手と対話】

わりやすいと思うからです。」「私は具体例、図の方が伝わりやすいと思います。初めに分かりやすい具体例を述べて、後から図で補足した方が伝わりやすいと思うからです。」等、意見を述べ合いました。友達の意見を聴いて、自分が選んでいない構成のよさにも気付くことができました。そして、筆者の構成の意図を探り、自分の文章を分かりやすく伝えるための構成を考えていきました。

授業討議では

「どちらを選んでも自分の意見がもてるような教材文であったので、それぞれの立場に立って吟味することができた」「友達の意見を参考にして自分の考えに生かしていた」等のご意見をいただきました。一方、「子どもに相手を選ばせて対話させるのではなく、意図的にグループを組んだ方が、より考えが深まるのではないか」等のご意見もいただきました。

社会科

第4学年 「災害を前に、みんなの力で守ろう！わたしたちの暮らし」

坂出市の南海トラフ巨大地震における想定最大震度は6弱とされています。その震度から、子どもたちは被害は大きいだろうと予想していました。しかし、同じ震度6弱の長野県神城断層地震では公助が間に合わない場面があったにもかかわらず死者が0人だと知り、その理由を探ることとしました。



まず、自助、共助、公助の視点から地域で勉強したことを基に、備えを予想し【視点を明確にする】ました。そして、震源に近い白馬村の取り組みを調べ、それらがどうつながり、死者をなくすことに役立ったのかを話し合いました。その際、話し合いの手順を確認したり、友達の話にうなずいて聴くことを意識させたりすることで、対話が円滑に進められるようにしました。対話では、「家にジャッキを準備していたことが家の下敷きになった人を助けることに役立ち、助かった人がいると思います。」と伝えたり、友達の発言につないで「近所づきあいと、災害時助け合いマップがつながって、避難することができた人がいると思います。」と発言したりしました。それらを板書上でつなげ、取り組みの関係性を明らかにしていきました。さらに、白馬村の区長さんが近所づきあいを大切にしているという話から、防災・減災には公助や自助だけでなく、共助も重要であると気付いていきました。



【友達の意見とつないで話す】

授業討議では

「グループで話し合うことに慣れていて、スムーズにお互いの意見を出すことができていたのがよかった」「友達の話を聞いてうなずく子や相づちを打つ子がいて、対話の雰囲気がよかった」というご意見をいただきました。一方で、「近所づきあいの重要性を具体でふくらませることでより子どもたちの考えが深まったのではないか」というご意見もいただきました。

日本がカンボジアに対して行った支援活動を調べてきた子どもたち。家族や仕事、命を犠牲にしてまで支援した人たちに対して「なぜ、ここまでして支援活動をするのだろうか」という疑問をもちました。戦後の日本が外国から多額の支援を受けていた事実を知らせて時間的視野を広げ、支援する立場からだけでなく支援される立場でも考えることができるようにしていきました。ふだんから関わりの深い生活班の4人で、新たに得た事実を基に、当時



【安心して対話できる班構成】



【支援活動を図に整理】

の日本人に思いを巡らせ、その理由を追求していきました。そうすることで「苦しいときに助けてもらいうれしかったから」「戦後食事ができなくてつらかったから」等の理由があることに気付いていきました。さらに単元導入時子どもたちと共に作成した支援活動の関係図に、再度着目させました。子どもたちは、既習を振り返り、関係図に整理しながら話し合うことで「日本は技術を教えるだけだと思っていたけれどカンボジアからもアンコールワットのすばらしさを教えてもらった」「かわいそうだから支援しているだけでなく、カンボジアが発展したら日本企業も進出でき、お互いにとっていいからだ」等、支援活動が日本からカンボジアへの一方向ではなく、お互いに助け合っているという認識をもつことができました。

授業討議では

生活班での話し合いが自然に行われていたことや、子どもから「話し合いたい」という意見が出たことに対して、「話し合う価値が子どもたちに浸透している」というご意見をいただきました。しかし、「支援活動について、個人と国のどちらの立場で考えるのかを明確にしておくことで、より主体的に問題解決に向かわせることができたのではないか」等のご意見もいただきました。

本実践では、「ばしょとりゲーム」の結果を基に広さ比べをすることを通して、ものの広さの意味とその測定の仕方を捉える力の育成を目指しました。本「思考力」を育成する際は、さまざまな方法で広さ比べができることに気付かせるとともに、状況に応じてより簡潔・明瞭・的確な方法を選択できるようにすることが大切です。



そこで、まず、広さ比べの方法を多様に見いだすことができるように、右の【多様な考えを生む教具】のような枠の中に正方形の板を自由に並べられるようにした教具を準備しました。この教具を使って「ばしょとりゲーム」をした後、子どもたちからは、「数を数える」「重ね合わせる」といった方法に加え、「5ずつ数える」「10のまとまりをつくって数える」等、数え方の工夫についての考えが多様に表出されました。その後、結果を見比べながら、それぞれの結果に応じたよりよい広さ比べの方法について話し合う場を設定しました。司会者を中心に、「話し合いのポイント」を意識しながら話し合う中で、「同じくらいの数をとったときは、5や10のまとまりをつくって数える方法が速いよ。」「差が大きいときは、重ね合わせて残りを見るといいよ。」等、結果に応じて



【よりよい方法について対話】

よりよい広さ比べの方法を選択していくことができました。

授業討議では

「教具により、広さ比べの方法を多様に見いだすことができていた」「『話し合いのポイント』を意識しながら、友達の発表をしっかりと聴いていた」等、支援の効果についてのご意見をいただきました。一方、「対話への意欲を高める支援が必要」「何気ない教師の行動や発言も、技能や雰囲気づくりの支援になる。ふだんから意識しておくことが大切」等のご意見もいただきました。

6人掛けテーブル9台に座れる人数を求める問題で、テーブルの間に座れない状況のため単純に求められず、テーブルが1台増えるごとの規則性に着目する必要がありました。そこで、三つの表現様式で規則性を基に解決してきた前時までを振り返りながら、「図、表、式を使って求め、そのわけを方法をつないで考えよう」という学習問題を設定しました。

まず、図、表、式の中から自分が取り組みやすいものを選んで求めました。そして、3人組での話し合いでは、三つの表現様式を透明シートに挟み、「表の増えている数の4は、図のこのことです。」のように表や式の数と図を線でつなぎながら説明しま



【3人組で説明し合う】



【式の数値を図で説明する】

した。それを聞いた友達は、朝の時間に行った「いいとこさがし」を想起しながら、「4の意味がよく分かったよ。」と肯定的なことばをかけてから、「 $4 \times 9 + 2 = 38$ の2は、図の端の人数です。」のように自分の考えを説明しました。次に全体対話では、1台のテーブルに座る4人を示す図と表や式を板書上でつないで考えを説明し、意見を求めました。そうすることで、式の4は表を横に見たときの増える数であることを見だし、図、表、式を一体的に見ながら変化の規則性を捉えていくことができました。

授業討議では

「図、表、式から選択することができ、自分の考えを表現しやすかった」「表現様式をつなぐことは、それぞれの意味を深く考えることになり、大事なことである」等、多様な考えをつなぐことが「思考力」育成に有効だったとのご意見をいただきました。一方、全体での話し合いについて、「まず式を出させ、そこから意味を考えると、より焦点化できる」との代案もいただきました。

本時は「10%引きの値段から、さらに20%引きにする」、「20%引きの値段から、さらに10%引きにする」、「 $(20+10)\%$ 引きにする」という3種類の値引き券を提示し、「一番お得な値引き券を見つけよう」を学習問題として、それぞれの代金がいくらになるかを求めていきました。その過程で、どれも同じような値引きに見えるのに、三つ目の値引き券だけが安くなるのはなぜかという疑問が生まれました。



【グループで対話する】



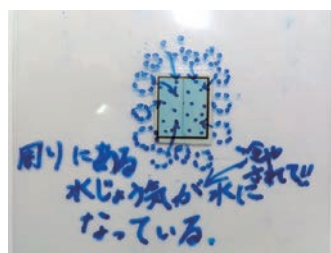
【図で値段の求め方を説明する】

生活班によるグループでの対話では、ふだんから行っている「あなたが伝えたかったことは」という活動を想起させ、順番に自分の考えを言えるようにしました。まず、話し手が値段の求め方や三つ目の値引き券が安くなるわけを1分間ずつ説明しました。次に、聴き手はその発言を要約して伝え返しました。全体での対話では、「大きい金額にいったんに割引をした方が得です。」「だから、2段階で値引きをする方がお得と言えない。」「最初の二つの値引き券が高くなるのは、2回目の値引きの時にもとにする量が小さくなるからだ。」と図とつないで考えを伝え合うことで、もとにする量を明確にして、一方が他方の何倍になるかという関係を捉えていきました。

授業討議では

「グループ交流で言いにくい子の考えを代弁して班の子が助けている様子が見られ、生活班での関係が生かされていた」「肯定的な受け答え、温かいクラスの雰囲気があった」等、働きかけが有効であったというご意見をいただきました。一方、「値段の求め方に時間をかけず、もとにする量が変わっているところに焦点化して対話をさせるべきだった」等のご意見もいただきました。

本時は「なぜ、水が出てきたのだろうか」を学習問題として、冷えた物の表面に水滴が現れた理由を考えていきました。その際、さまざまな現象に出合わせる事が大切です。そこで、身の回りで起こる三つの結露場面（冷蔵庫で冷やされたペットボトル、冷たい空気に冷やされた眼鏡のレンズ、外気と接している窓ガラス）を取り上げました。そして、実際にそれらの現象に出合わせることで、興味をもって追究していきました。子どもたちは自分が選択した場面



【考えをイメージ図に表出】

【結露場面との出会い】で結露現象が起こる理由について、教室において水が自然蒸発したイメージ図を振り返りました。そうすることで、「冷たい物の周りには水蒸気が冷やされたからではないか」と予想をしました。実験の後、個々の結果からイメージ図を用いることにより、結露現象が起こる理由を多様に考えていきました。子どもたちは冷えた物の表面に水が出てきた事実と冷たい物の周りに水蒸気が存在する事実を矢印でつないだり、ことばを付け加えたりして「周りにはある水蒸気が冷やされて水になっている」等と考えを表現することができました。そして、自分の考えを表現したイメージ図を手で自分が選択していない結露場面について考えた友達と意欲

授業討議では

「身の回りで起こる結露場面を扱うことで、出てきた水が水蒸気と関係があるのではないかという考えが生まれやすくなった」等、働きかけが有効であったというご意見をいただきました。一方、「保冷剤の実験をもっと多様な場所で行い、その結果からイメージ図をかかせた方がよかった」「想像が膨らみすぎたので、絞る手立て等が必要だった」というご意見もいただきました。

子どもたちは、電磁石魚釣りゲームでの経験から、大きな魚を釣り上げるためには、電磁石を強くする必要があると考え、電磁石の磁力を強くするために、「電流を大きくする」「コイルの数を増やす」「導線の巻数を増やす」という3種類の方法を考えました。本時は「〇〇を大きく(多く)すると電磁石の磁力は強くなるのだろうか」と考え、選択した方法別のグループに分かれて追究しました。どの方法を使っても磁力が強くなったことを



【磁力の強さを鉄釘で確認】

テスラメータの数値や付く鉄釘の個数で確認した後、磁力の強くなったコイルを流れる電流の様子をシールを使ってイメージ図に表しました。選択した方法によってそのイメージ図は異なりましたが、話しやすい4人組から交流を始めることで、自分の考えを自信をもって伝えることができました。そして、「コイルを2個にしたり、巻数を2倍にしたり、電流の大きさを2倍にしたりすると、テスラメータの数値がだいたい同じになっている。」「どの方法でも増えた電流シールの数が同じになっている。」「どの方法も電流を鉄芯の周りに集めている。」と、共通点を見つけていきました。そして、「方法は三つあるけれども、電流を鉄芯の周りに集めて、磁力を強くしているという点で同じである。」と結論づけることができました。

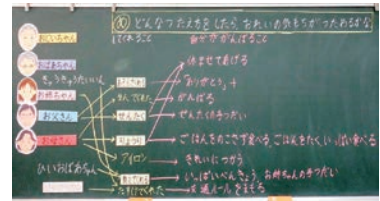


【違うイメージ図の友達と交流】

授業討議では

「三つの異なる実験を同時に行ったことで、それぞれの方法を確認しながらイメージ図で交流できた」「イメージ図は考えの表出に有効であった。そのイメージ図を使った交流により、電流に着目でき、操作の共通性に気付くことができた」というご意見をいただきました。一方、『思考力』育成に向けて、課題を明確にした対話を設定する必要がある」とのご意見もいただきました。

給食の調理員さんとの関わりを考える活動から、感謝の気持ちの伝え方には「ありがとう」のことばと共に、相手が喜ぶことや助かることを自分が実践していくとよいことに子どもたちは気付きました。本時では、自分が感謝の気持ちを伝えたい相手に対して「どんな伝え方をすれば、お礼の気持ちが伝わるか」という学習問題を設定し、自分と相手との関わりに応じて、どんなことができるかを考えていきました。



【相手に応じた伝え方を考える】
例えば、いつも仕事や家事を頑張っているお母さんには、「お手伝いをして、少しでも早く寝かせてあげよう。」や「肩を叩いてあげよう。」等の考えが、自分たちを見守り助けてくれる警察官の方には、「交通ルールはきちんと守ります。」等の考えが出されました。ペア対話の前には、「どうして」と理由を尋ね合うとよいことを助言しました。それにより、進んで理由を問うことができ、「お母さんが喜んでくれそうだね。」と、伝え方が適切かどうかを確かめていきました。その後、全体対話で互いの意見を聴くことにより、子どもたちは相手によっていろいろな感謝の気持ちの伝え方があることに気付きました。そして、別の相手にも感謝の気持ちを伝えたいという意欲が高まっていきました。



【伝え方について話し合う】

授業討議では

「前時の共通体験が本時の思考に生かされていてよかった」「対話の際に、相手の子の方を向き、相手を見て話していた様子から、この1年間の取り組みの成果が見取れた」等、対話への支援が有効であったというご意見をいただきました。一方で、「教師の支援を減らし、もっと子どもの主体性に任せて対話をさせてみるのもよかったのではないか」等のご意見もいただきました。

音楽科

第3学年 「音を重ねてアフリカの様子を表そう -『マンガニ、雨とおどろう』-

『マンガニ、雨とおどろう』の日本の音楽とは違った不思議な音色やリズムに興味をもった子どもたちは、それらを用いてアフリカの様子を表したいと考えています。本時は、どのように音を重ねれば自分たちの思い浮かべているアフリカの様子に近づくのかを探っていきました。音を重ねるタイミング、音色、強弱の工夫について話し合った後、「ぼくはボンゴの音をだんだん大きくするよ。」「それなら、私はボンゴの音が大きくなったところで、川



【音の重ね方を話し合う】
の水の音を鳴らそうかな。」等、それぞれの思いをグループの友達と伝え合いました。その際、互いの思いをよく知るために行った「質問ジャンケン」を想起させ、「どうしてその工夫にしたのかな。」と



【互いの演奏を聴き合う】

尋ねるよう促すことで、「バッファローがだんだん近づいてきて川に飛び込む様子を表したいから」等、互いの思いをよく理解し、尊重しながら音の重ね方を考えていくことができました。全体対話では、他のグループの演奏を聴くことで「遠くからたくさんのシマウマが近づいてくるように、みんながだんだん強く鳴らしていました。」等、自分たちの演奏にはない工夫に気付き、自分たちの演奏に生かしたいという思いを高めることができました。

授業討議では

「重ね方の工夫を具体的に見せることが、子どもたちの表したい様子や工夫とを結ぶ支援となった」「友達に質問したり自然と拍手したりする姿から、これまでの学習が生かされていると感じた」等、対話への支援が有効であったというご意見をいただきました。一方で、「ことばと音、双方を行き来しながら、自分たちの思いに近づけることが重要」等のご意見もいただきました。

図画工作科

第6学年 「明かりをつけると絵が変わる紙袋」

こいで やすひろ
小出 泰弘

本単元では、袋の中のランプをつけると内側に表した形が外側の形と重なり、外側の絵が変わる紙袋をつくろうとしています。前時は、共通の部分である外側の「魚」を基に、内側に表す形を1枚の透明シートに表しました。そして、内側の形の表し方が他にもあるのでは、という思いをもちました。そこで、本時は、学習問題を「外側のイメージを変えるために、



内側に表す形の工夫のしかたをいろいろ見つけよう」と設定しました。作【複数の透明シートで内側の形を表す】例から、外側の魚の形と内側の形に「関連があるもの」「関連がないもの」という観点を見つけた子どもたちは、それらを手がかりにして、複数の透明シートに内側の形を次々に表していきました。できた作品について対話をする際には、朝の活動で行った「〇〇のことだけど」で手順や要点を押さえた話し合いをした経験や、「なるほど・そうだよね会話」で共感しながら聴いた経験を板書で振り返ることができるようにしておきました。それにより、「これは、尾びれを象の耳と見て、鼻や目などを加えたよ。」「魚が象になるのがおもしろいよね。」等、表し方のよさについて対話をする姿が見られました。そのような対話を基に、自分が表したい外側の絵をどのように変化させるかについて、アイデアを広げることができました。



【お気に入りの作品を箱の中で紹介】

授業討議では

「透明シートの活用により、たくさんのアイデアが生まれ、自然に対話が行われていたグループもあった」「繰り返し自分の発想を試しながら活動できる教材で、子どもたちは生き生きと活動できた」等のご意見をいただきました。一方で、「対話に向けて、アピールポイントを表示しておけばよいのではないか」というご意見もいただきました。

家庭科

第5学年 「かしこい消費者になろう ーめざせ！買物の達人ー」

はが さやか
芳我 清加

参観日に、おうちの方にご飯とみそ汁を作ろうと計画している子どもたちは、よりよい活動にするため「附小フェスタ」でのうどん作りを振り返りました。「お茶があるとよかった」という声や「使い捨て容器ではごみが多くなる」という反省を基に、本時は、食事と一緒に出すお茶はどれがい



いか、4種類（①2Lのペットボトルと紙コップ②500mLのペットボトル人数分③250mLの紙パック人数分④湯を沸かして自分で入れる）から選択しました。自分が選ぶお茶、選ばないお茶について話し合う際には、朝の活動で行った「究極の選択」や他教科でも経験している「聴き方のこつ」を想起させました。ミニボード上に自分の考えを明示し、そう考えた理由を互いに語り合うと、「④は心のこもった温かいお茶を入れられるし、値段も安いよ。」「でも、ご飯やみそ汁でコンロは使えないし、お湯を沸かす時間がかかる。そこはどう解決するの。」や「①は手軽だけれど紙コップがごみになる。」「紙コップをやめて湯呑みを使えばいいよ。」等、量・値段・利便性・ごみの量等の視点から比較することができました。その後、「学校に毎日持ってくるならば」と状況を変えて考える場を設定しました。状況が変わることで選ぶ商品も変わり、その理由を「特別な日と毎日では変わる」「お客様用と自分用では違ってくる」等と話し合う



【理由を語り合う】

ことを通して、目的に応じて選ぶことの重要性に気付くことができました。

授業討議では

「選ぶ、選ばないそれぞれの理由を話し合うことで、比較する視点が多様に出された」「話し合いの後に考えを変更した子どもがいたのは、より多くの視点で比較し、考え直した姿と言える」等のご意見をいただきました。一方で、「生活につなぐ場面では、日常を想起できるような助言がさらに必要」「聴き方のスキルをもっと定着させる必要がある」というご指摘もいただきました。

体育科

第2学年 「ゴールをねらって決めるシュート! ~ボール蹴りゲーム~」

やまじ あきよ
山路 晃代

前時の学習で、チームのみんなでシュートを決めて勝ちたいという思いが高まり、本時「みんなが点をとれるように作戦を立てよう」という学習問題を設定しました。前時までのシュート結果から、これまでシュートが決まらなかった友達が点を取れるようにすれば点が増えそうだと気付きました。そこでそれぞれのチームごとに、これまでにシュートが決まらなかった友達の動き方を中心に、チーム全体の動きを考えていきました。その後、「ナイス」「どんまい」等のもらってうれしいことばを絵カードで確認し、雰囲気を高めながら、ゲームを行いました。



【見つけた動きを伝え合う】

1回目のゲーム終了後、「作戦がうまくいかない」というチームの声から、どうしたらみんながシュートできるのか、教師が用意していた映像を基に話し合いました。その際、異なる人物を見た者どうしが「赤の人が相手の前に来ていたよ。」「緑は前に走ってパスをもらえたよ。」「青は、相手の前でずっとくっついてたよ。」と対話することで、得点につながる多様な動きを見つけました。その際、朝の活動で行ってきた「リーダーごっこ」を生かして、チームみんなが自分の考えを伝えられるようにしました。そして、「僕が青みたいにおとりになっている隙に〇〇さんがシュートしたらどうかな。」と自分たちに合った作戦を選んだり、見いだしたりしていくことができました。



【立てた作戦を使って】

授業討議では

「誰もが話せる雰囲気になっていたので、どの子も自分の考えを伝えることができていた」「見る人物を決めたことで、それぞれの動き方を見つけて対話が行えていた」というご意見をいただきました。一方、「実際の動きと映像の動きをつなげる支援や、それぞれのゲーム終了後に作戦を振り返る時間を設定することで、動きの幅が広がる」というご意見もいただきました。

体育科

第3学年 「宇宙探検! -表現運動-」

やまもと けんた
山本 健太

前時、空想の世界で宇宙探検に出かけた子どもたちは、「無重力」のイメージを広げ、楽しく踊るための動きの秘密を見つけました。そして本時では、宇宙探検をより楽しいものにするために、「UFOが現れた」「隕石が落ちてきた」等の急変する場面での動き方を考えていきました。



【多様な動き方を共有】

最初子どもたちは場面が急変すると、「逃げる」動きに偏ってしまいました。

そこで、バスケットボールや野球ボール等を用いて、「キャッチする」「投げる」「打つ」等と動きがさまざまにあることに気付かせることで、「逃げる以外の動きで踊ると楽しそう。」という見通しをもつことができました。そして、自分の考えた急変する場面での動き創りを進めました。場面に合った動きを伝え合う対話を行う際には、詳しいことばで伝えることのよさを想起させることで、互いの動き



【踊りを基に対話】

きを具体的に伝えることができました。「三つの隕石が落ちてくる」場面を踊ったグループでは、「隕石をキャッチする動きはいいね。」「最後に飛んで来た隕石に吹き飛ばされて尻もちをつくのはおもしろいね。」等、自分では思いつかなかった動きを伝え合うことで、より楽しく踊るために動きを組み合わせたり、見いだしたりする姿が見られました。自分の踊り方を発表した子どもが、友達から拍手で称えられることで、お互いに認め合う雰囲気が高まっていきました。

授業討議では

「温かい雰囲気の中で、お互いの話を最後まで聴く姿勢が身についていた」「ボールという身近な教材を用いることで、逃げる以外の動きが共有でき、それぞれの考えをもって踊ることができていた」等のご意見をいただきました。一方で、「グループどうしで踊りを見せ合う場面があると、さらに工夫する視点が増え、自分の動き創りに活かせたのでは」というご意見もいただきました。

薬物乱用防止教室で、薬物乱用の恐ろしさを知った子どもたちは、「絶対に使いたくない」と考えました。しかし、身の回りにもさまざまな薬物が氾濫し、それが原因で起こる事件があることに不安を感じました。そこで、どうすれば薬物から身を守っていけるのか、考えていくこととしました。



まず、日頃の生活の中の「健康によくないけどしていること」「健康のため【ポートフォリオを活用】にできていること」を、入学時から積み重ねた「ほけんファイル」で振り返りました。その一人一人の経験を「僕はいつも、テレビが我慢できなくて夜更かししているよ。」「私は、健康でいたいから早寝早起きできているよ。」等と述べ合い、健康を損なう行動をしてしまった原因やそれをしないという意志をもてたきっかけに気付いていきました。その際、朝の活動で行った「アイコンタクト」を想起させ、集中してお互いの経験を聴き合えるようにしました。その後の全体対話では、特に、健康によい行動を続けている人の経験に注目させることで、その背景には自分を大切にするという強い気持ちがあるということに、子どもたちは気付いていきました。



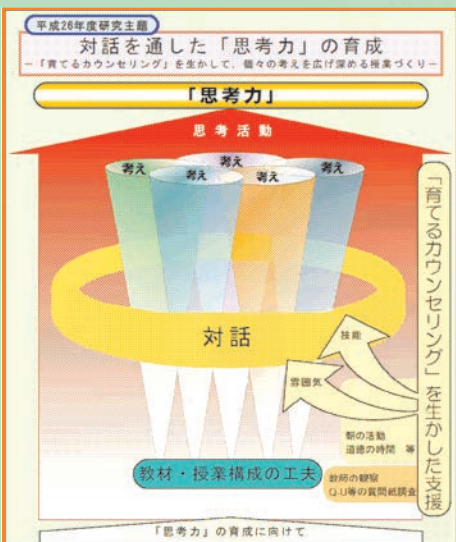
【経験を基に対話】

そして、この気づきを生かし、「みんなやっているよ。」等の弱い気持ちを狙った誘いがあったとき、それを断る強い意志をもつためには、大切な自分の体を自分で守るという意識が必要であるということを理解していきました。

授業討議では

「ポートフォリオを用いたことで、自分の生活を振り返りやすくしていた」「『アイコンタクト』ということばに子どもたちがよく反応し、集中して聴くことができていた」等と、ご意見をいただきました。また、「薬物乱用に視点を移した際、乱用してしまう人の気持ちも考えさせれば、さらに考えが深まったのではないか」というご意見もいただきました。

次年度研究に向けて



本年度の授業研究会でいただいたご意見



対話の成立に向けてどのような支援を行うことが、「思考力」の育成につながるのだろうか。

「育てるカウンセリング」は、現状に合った必要な支援である。具体的にどのような支援を行えばよいのか考えていきたい。

次年度研究の方向性

- ★本年度の研究テーマを継続し、対話を通した「思考力」の育成に向けた実践を積み重ねていく
- ★対話の成立に必要な支援の要件を見いだしていく

編集委員

西岡 由都

白川 章弘 清水 顕人
藤本 博文 中家 啓吾
尼子 智悠 山本 健太

平成27年3月18日

香川大学教育学部附属坂出小学校

TEL 0877-46-2692 FAX 0877-46-5218

E-mail sakaide@ed.kagawa-u.ac.jp

URL http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~sakasho/